

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	首都圏 - 1	(2)記載者氏名:	森合 孝信	会員番号:	13758	事務局整理記入欄	地理クラブ - 16	
分水嶺区分	E326大峠 ~ E329三倉山三角点 ~ E330番屋の科尔		(3)山行日:	2005年	7月	17日	(4)天候	曇りのち晴れ

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

L北野忠彦	10414						
近藤善則	12489						
今井秀正	13787						
森合孝信	13758						
計		4名		計		名	

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	大倉山より三倉山三角点は既に踏査済み、三倉山より西方向へ番屋の科尔へ向かう												
アプローチ:	大峠下駐車場												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	林道大峠線終点	那須岳								6:05			(ア)
分水嶺到達点E326	大峠	那須岳	139	56	30.3	37	9	10.6	1,473	6:40	6:45	A-1	
E327	流石山	那須岳	139	55	35.4	37	9	05.0	1,815	8:00	8:10	A-1	(イ)
E328	大倉山	那須岳	139	54	23.4	37	8	58.2	1,892	9:10	9:20	A-1	(ウ)
E329	三倉山三角点	那須岳	139	54	09.0	37	9	15.4	1,858	9:35	9:50	A-1	(エ)
	P1751	那須岳	139	53	55.4	37	9	13.3	1,751	11:30	11:35	B-3	
	P1697	那須岳	139	53	40.0	37	9	11.6	1,699	12:10	12:20	B-3	(オ)
	P1616	那須岳	139	53	20.7	37	9	03.7	1,616	13:20	13:30	B-3	(カ)
分水嶺離別点E330	番屋の科尔	那須岳	139	53	01.2	37	8	56.9	1,478	14:40	15:00	B-2	(キ)
歩行終了点	番屋川									17:30		B-1	(ク)
											総歩行時間(休憩時間を除く):	10時間50分	

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
E327	流石山	3	正常	良好	
E329	三倉山三角点	3	正常	良好	航空測量のための板が残っていた。

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

(ウ) 国土地理院1:25000「那須岳」の「大倉山」の名称は1831mに記載、大倉山の標識杭は1892mに設置。
(ク) 番屋の科尔から番屋川までは、地図上では道があるが、現地はチシマザサで覆われ、一部、道の痕跡が見られる程度。

(9)水および植生に関連した特記事項

(イ) 大峠から流石山に向かう山肌は、満開のニッコウキスゲに覆われ、ハクサンフウロ、ウサギギク等の花々も群生。
(エ) 三倉山三角点の男鹿岳方向は道が無くハイマツ、ナナカマド、シャクナゲ等の灌木やチシマザサのヤブに覆われていた。ケモノ道と思われる跡を進んだ。
(オ) 稜線の日本海側は、ハイマツやシャクナゲ等が自生し、太平洋側は腰ぐらいのまでの高さのチシマザサに覆われている。
(カ) 1616mピークから番屋の科尔までの稜線にダケカンバやブナの森が横たわる。木々の間には2メートルを越すチシマザサが生い茂り、見通しがきかない。タケやシャクナゲ等を掻き分けながら進むが、木々に衣服やザックを引っ張られた。
(キ) 大峠から番屋川まで、水を補給できる沢がない。

(10)その他の特記事項

(ア) 7月16日、帰路の交通を確保するため、事前に下山予定地の番屋川林道に移動用の自動車を1台駐車し、踏査準備を整えた。7月17日、日の出前に登山口に向かったが、この日は三倉山の山開きで、既に林道の交通規制が行われていた。2台の自動車は林道中間で強制的に駐車させられ、終点までは送迎用のバンで送られた。登山者は300人以上いると聞いた。林道終点は駐車スペースが数台分しかなく、舗装部分が無くなってから終点まではひどい悪路で送迎車に乗れたのは幸運だった。
---

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: P1616休憩地点、後方に三倉山方向から縦走してきた分水嶺が見える。手前側が那珂川水系(栃木県側)、向こう側が阿賀野川水系(福島県側)である。ドウ糖をいただき、消耗したパワーを充電、番屋の科尔を目指し出発する。
---

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。 今回の踏査は、当初、中間地点でピクニックする案であったが、雷鳴のため、翌日1日だけの日帰り踏査に変更した。結果的に日帰り計画への変更は、荷物を軽減し行動力を向上させる効果を生んだ。
--

また、事前調査を数回にわたり実施していたのが、踏査困難区間の踏査達成に繋がったと思う。  
しかし、課題は残っている。今回、踏査中、隊員の一人が「ぎっくり腰」を発症した。隊員の体力と精神力により下山できたのは幸いであった。

また、このコースは、森の中は広葉樹林とチシマザサに覆われ見通しが悪く、携帯電話が通じない。アマチュア無線の活用など、受信側の体制も含め、連絡体制を整備する必要性を感じた。

さらに、タケのヤブという自然の猛威に、改めて驚かせられた。  
一週間前に、事前調査したときは、地図上の電波塔に続く道は、柔らかいタケノコが繁茂していたが、今回は青く丈夫なタケになっていた。成長したタケは硬く、進路を塞ぎ、前進しようとしたが侵入者を受けなくなっていた。

大峠から番屋川まで、水を補給できる沢がないため、前週、西村さんが2 のペットボトルを番屋のコルに水揚げしてくれていた。木に吊り下げられた水の袋を見つけたときは嬉しかった。いただいた水は冷えていて甘く、とても美味しかった。

番屋のコルから番屋川までは、地図上では道があるが、現地はチシマザサで覆われ、一部、道の痕跡が見られる程度で迷いやすい。番屋のコルの約5m直下から稜線方向に腰程度のチシマザサが一方に続いていたことから番屋川へのルートを発見できた。

一週間前の事前調査の際の森は、新芽や成長したタケノコが多く、明るく見通しが利いた。今回の縦走時の森は、葉が伸び、新緑に覆われ、暗く見通しは悪かった。道跡や踏跡が消え、事前調査の際に付けた赤いリボンを見つけれないこともあった。



P1616休憩地点、後方に三倉山方向から縦走してきた分水嶺が見える